

市制 20 周年記念



未来へ残そう 明野 自まん



明野小学校

令和 6 年度 4年生の取組

明野しょうかい

明野は三重県伊勢市小俣町の中にあります。伊勢市は三重県の中東部に位置し、明野は宮川の下流近くにあります。明野は自然豊かな場所で、とても農業がさかんな地域です。宮川が近くを流れており、すぐにきれいな水が引けるので農業がさかんにできるのです。

明野の人口は、2024年11月現在では4,815人です。明野には県立明野高校、伊勢市立明野小学校があります。小学生の児童数は年々増加けいこうにあります。

明野の地図は以下にけいさいしたとおりです。総面積は4196.836 m²です。

明野の店はへんばや、イセヤ、わらしべ、はまぐちや、アポロン、あじへい、銀次郎、町家カフェがあります。明野のお土産として、へんばもちをおすすめします。くらじゅのくしあげ、マスヤ工場のおにぎりせんべい、アポロンのケーキも人気があります。

明野は緑豊かなところですが、近年建物がが増えて自然がなくなってきています。全国的にも森林がなくなる中、明野地区も同じように開発が進んでいます。



明野の生産業

明野には、マスヤ工場のおにぎりせんべい、へんばやのへんばもち、美和ロック伊勢工場などがあります。その中でマスヤ工場のおにぎりせんべいと美和ロック伊勢工場についてしょうかいします。

おにぎりせんべいは、伊勢市でしか作られていません。おにぎりの形をかたどった、ソフトな食感のおせんべいです。しょうゆ味のおせんべいは、発売当時からある味です。その他にもつぶ塩が付いた、銀しゃり味も人気です。

マスヤ工場のおにぎりせんべいはいつたん生したのか



マスヤ工場のおにぎりせんべいは、1969 年（昭和 44 年）の 7 月にたん生しました。マスヤ工場のせんべいは、今年で 55 周年です。

ミジュマルと
コラボして
いるよ！



美和ロック伊勢工場について

美和ロック伊勢工場は、小俣町にあります。美和ロックは、家の扉のカギなどを作っています。現在は、となり町の玉城町にある玉城工場をメイン工場としてカギは作っていて、伊勢工場は製品の検品をしたり、倉庫として使っていたりします。

美和ロック伊勢工場はいつ出来たのか

1945 年（昭和 20 年）5 月 5 日に美和ロック伊勢工場が出来たそうです。



へんばやの由来・れきし



へんばもちは、江戸時代から始まり、それから約 250 年続いてきました。へんばもちはお伊勢参りに来た人々が宮川の手前にあるこのお店で休けいをして馬を返してから、参ぱいしたことから、へんばもちと名付けられました。

昔は、宮川の近くにお店をかまえていましたが宮川に橋がかかり、現在の場所でえい業しています。そうぎょう当時のねだんは、50 円から 100 円で昔は手作業で作られていましたが、昭和 50 年代に機械化されました。

へんばもちの名前の由来は、もう一つあります。昔、病が流行し、とある家族は、その病に苦しんでいました。しかしそのおくさんは、その病にかからなかったのでひたすら伊勢神宮の鳥いの前で、家族のかいふくをいのっていました。

ある日のこと、そのおくさんの父親が、「自分の顔に病のせいでできた、はだあれを見たい。」と、たのみましたが、家には手かがみなどは無く、おくさんはこまりはててしまいました。

後日、父親の気をまぎらわせてあげようとおもちを焼きました。すると、おもちの焼き目が父親の顔にそっくりだったので父親に見せると、なぜかみるみるうちに病が

治ったので他に病にかかった兄弟たちなどにそれを食べさせると、また病がみるみるうちに治りました。

そのこともあり父親が、「これはずっとへんば所の鳥いの前でいのっていたからだな、だからこれは、へんばもちだな。」と言ったことから、へんばもちという名前になったという説もあります。

へんば餅(種類・作り方)



へんばもちの「あん」は国産あずきを丁寧にたき上げたなめらかなこしあんです。大きなあつりよくなべで、たき上がったじょうき豆のあずきから、窓を開けると工場いっぱい甘い香りがします。たきたてのあんは、すぐには使用せず冷ぞう庫で一日休息させることで、したざわりがよくやさしい甘さに仕上がっています。へんばもちの生地はげんせんされた国産の米粉をむし上げて丁寧につき上げます。へんば餅の焼き目が星やハート型に見えることがあります。



へんばやのこだわり

200 年以上前から創業されている「へんばや」。当時からほとんど変わらないこだわりをしょうかいします。

伊勢以外に、
店は作りません。



昔から味や見た目はあまり変わっていません。



えい生面にも、こだわって、5 個包そうにしています。



～こだわり～

- ・味や見た目を変えていません。
- ・つきたてのやわらかな生地をねかし、味のなじんだ、あんを包み合わせて昔から変わらない味わいがこだわりです。
- ・あんをたいた後、たき立てで餅に包むのではなく、1 日冷ぞう庫で冷やして口ざわりの良いあんになっています。
- ・もちはやわらかく、あんはあますぎず、サラッとしたこしあんです。
- ・えい生面にも気を付けています。



明野の農業



明野には、いろいろな農業があります。米はもちろん、麦や野菜も育てています。そんな明野の農業のじょうきょうについてくわしくお伝えします。



家で作りにくい野菜なども明野ではたくさん作って売っています。



昔は、伊勢たくあんがさかんでした。今はそんなに作られていません。

明野の畑は、およそ 100 か所以上あります。今は米作りがさかんです。

サンファームおばたの店長さんの話によると、野菜などを売っていた人たちのおよそ 3 分の 1 の方がなくなっているので、農家をやっている人も少なくなったことが分かりました。

農業のうつりかわり

明野は、昔から農業がさかんで、特にタバコ、大根、電照ぎくがなどがさかんに作られていました。

電照ぎくをさいばいしていたビニールハウスを再利用し、バラ・トマト・イチゴ・メロンなどを作る農家さんが増えてきました。

また、ナシのさいばいもさかんです。



美味しいイチゴをありがとう

明野小学校の2年生は、毎年イチゴ農家の南さんにイチゴのさいばいについて教えてもらっています。

イチゴハウスでは、赤くじゅくしたイチゴをつませてもらっています。

南さん
の話



イチゴのなえが病気で全めつしたり、台風などでイチゴハウスがつぶれたりしたけど、食べてくれた人が「美味しかったよ」と言ってくれたことがうれしかったので、今より美味しいイチゴを作る研究をしています。



田んぼアートって何？

田んぼアートの発しょうと言われているのは青森県田舎館村です。小俣町では2015年に始まりました。

田んぼアートは、田植えの時期に異なる品種のいねを植えて、巨大な絵やもようをえがく日本の伝とう文化です。色あざやかにいろどられた田んぼは、まるで広大なキャンパスにえがかれた芸じゅつ作品のようです。ゆう大な自然との調和が美しく、おとずれる人々をみりょうします。



このデザインは明野小学校の4年生がイラストを描きました。

(2023)

みんなで作る田んぼアート

明野の田んぼアートは、2015年に第一回が始まりました。一番最初のデザインは明野小学校の6年生が書いて、5年生が田植えいねかりをしました。最初のテーマは『小俣のいちご』でした。2016年からは、4年生がイラストを書いて、5年生で田植えをするようになりました。

稲は6種類使われています。ななつぼし（緑）・こうだいこく（黄）・むらさきとう（紫）・べにあそび（赤）・あかねあそび（オレンジ）・ゆきあそび（白）の品種を使用しあざやかな作品を作り出します。

みんなで、カカシを作ったよ！



～未来へ残そう明野白まん～

きゅうさんぐうかいどうそ

- ・へんばや商店は伊勢市の旧参宮街道沿いの自然豊かな景色が広がる田舎でもち屋としてそう業して、250年となりました。かつて伊勢神宮をめざして多くの人が旅をした宮川の町は、おかげ参りへ向かう旅路の最後の宿場として有名になった場所でもありました。



- ・「おにぎりせんべい」は、1969年(昭和44年)7月にたん生しました。当時、おせんべいと言えば丸いものか四角いものがほとんどでした。そこで、おせんべいを作る事になった時、「三角形のおせんべいがあっても



いいじゃないか」と言うことで三角形のおせんべいが誕生し、「おにぎりせんべい」となりました。

- ・美和ロックは、カギとじょう前を軸としたトータルセキュリティメーカーです。商品企画・設計からせい造・はん売までいっかんした事業を行っています。建ちく物のカギの生産・はん売において国内では6わり以上にもなり、世界約50か国でせい品が使われています。人々に安全・安心をていきょうすること。せい品やサービスだけでなく、利便性を高めた「コンビニエントセキュリティ」を目指しています。



〈産業をしている人達の思い〉

地元の人たちのことを考えているため、へんばもちは、伊勢に来ないと食べられないという特別感を感じてもらいたいと思い、伊勢以外に店をつくらないようにしている。

明野自衛隊で働いていた人から「20年ぶりお店に来て、お店も味も全く変わってなくてうれしかった」と聞かせていただきました。

そう業当時からの味や歴史、伝とうを守り続けている。そのために、味を変えないことを大切にしている。そのほかにも建物や作り方、店の場所を変えないことを大切にしている。また、営業時間もそう業当時から変わっておらず、地元で農業を営む人々に合わせて店を開けています。

〈明野じまんを残すために私たちにできること〉

- ・明野を知ってもらうためにポスターを作る。
- ・産業をしている人の思いや願いを知り、大切に受けついでいく。
- ・明野の産業で働く人たちの「明野」に対する思いを、地域の人たちに知ってもらう。

未来へ残そう明野自まん



～明野じまんを残すために～ 「私たちにできること」

- ・ 明野の農業を残していくため、明野の農業のよいところを広めて、やってみたい！と思ってもらう。楽しみな事を教えたり、やりがいを伝えたりする機会を作る。講演会など。
- ・ 自分達の活動のPRをし、明野のよさを知ってもらう。
- ・ 若い人たちに農業についてくわしく知ってもらう。（農業や産業のよいところを伝える。体験会など）
- ・ サンファームで明野のものを使ったマルシェを利用する。
- ・ サンファームのお仕事体験会に参加する。
- ・ 明野の野菜を自販機に設置して、明野で作った野菜を手軽に買えるようにする。
- ・ 子供向けのイベントなどを開さいして、明野で取れた野菜を景品にして食べてもらう。

～明野の農業の人の願い～

サンファーム小俣ではたらく人の声

「明野で農業をする人が増えて、明野のものを
使ってほしい・食べてほしい・知ってほしい。」
「地産地消の気持ちを大切にしてほしい。」

農家の人の声

「お金の面や、農地の広さなど、きびしい状況
もあるけれど、明野で取れたお米や野菜を食べ
たいと思っている人がいる。だから、頑張っ
ていきたい。」
「農家の高れい化や人手不足になっていて、
農家をしている人の数は少ないけれどがんば
って広めていき、若い人たちに農業を伝え
て続けてほしい。」

明野の農業をしている人は、 明野のことをどう思っているか？

- ・ 生きていくためには、食べ物が必要なので、
明野地区でも多くの人が米や野菜を生産し、
農地を守っています。そのことが、将来大切
であると知ってもらえるとありがたいです。
- ・ 明野の人たちのおいしいという声や笑顔で元
気をもらって農業をがんばることが出来ます。